

区が竣工式、交流や地域活動の場に

乙事諏訪社境内 「帳納屋」が完成



富士見

富士見町乙事区は6日、老朽化に伴って建て替えた乙事諏訪社境内の「帳納屋」の竣工式を開いた。

区役員や氏子総代、建て替えに当たって全面的に支援をした乙事出身の藤沢昭和・ヨドバシカメラ会長ら約40人が参列。神事と記念碑の除幕に続いて、こけら落としの

御神楽（獅子舞）や詩吟を多目的室で行い、交流や地域活動の場として未永く親しまれる拠点になるよう願った。（鮎沢健吾、飛矢崎貴規）

新しい帳納屋で御神楽（獅子舞）を奉納する西林組。伝承している所作で舞い、災厄が降りかからず建物が長く保たれることを願った
「富士見町乙事の乙事諏訪社境内

屋の歴史と藤沢会長への感謝の意を刻んだ。神事後、藤沢会長は「以前の古い建物は私も知っている。いい雰囲気な帳納屋ができた。親睦の場になればうれしい」と語った。木造平屋建てで、床面積は54・8平方メートル。窓を開放すると舞台のようになる。この日は区内の西林組が御神楽を奉納。笛の音に合わせて上下左右に獅子頭を振り、ひよっと

こ、おかめの面をつけた2人が胴幕を広げたり閉じたりして勇壮に舞った。災厄が降りかからず建物が長く保たれることを願った。

常駐はしないが、建物には出窓を備え付けており、祇園祭（7月）や二年参りなどの際に御朱印を頒布できるようにした。

五味俊区長は「藤沢会長の全面的な支援で竣工することができた。再建、竣工に関係した皆さまに感謝申し上げたい」とあいさつ。「住みたい、住み続けたい乙事区に向け、氏子の皆さんに大いに活用してもらえたら」と願っていた。

帳納屋は1948年の火災で焼失し、集落を挙げて翌49年に再建した。その建物も築70年余が経過して傷みが激しくなり、現地建て替えの方針を決定。昨年9月の同神社御柱祭までに取り壊し、御柱後に新築工事に着手した。

神事では前島正宮司が祝詞を奏上し、参列者の代表が玉串をささげた。竣工（工）記念碑は白御影石で造り、帳納